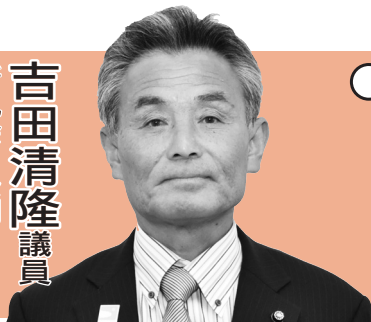


○ 県立大学新学部誘致について

新風会・公明
吉田清隆
議員



そのほかの質問

- ・UDフォントの導入について
- ・学校給食の冷凍食品導入について
- ・学校の手洗い場の自動水栓導入について

問 福井県立大学が第3期中期計画（2019年4月1日から2025年3月31日までの6年間）で出した「世界的な学術拠点となる古生物学関係の新学部」は、恐竜学研究所の学術成果や大学院の教育研究実績を活かし、恐竜などの古生物学を中心にしながら、年縞に関する古気候学等も取り入れた新学部の開設を検討し、世界的な学術研究拠点を目指すとある。

勝山市には県立恐竜博物館が立地しており、新学部創設の基準には十分に当てはまる。勝山市は小学生を対象に「かつやまこども恐竜LABO育成事業」を行っており、恐竜に関心を持つ子どもが大勢いる。新学部を勝山市に誘致できれば、小学生が大学生との交流もでき、勝山で大学生活を送ることにすれば勝山市の活性化につながると思う。県立大学の新学部誘致について市の考えを伺う。

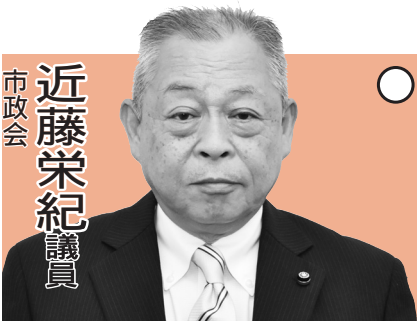
答 福井県立大学第3期中期計画において、福井の元気や持続可能性を支える大学としての機能強化を図るため、「地域・社会とのつながりを重視し、地域の教育力の活用や県内の施設等を実習の場とする全県キャンパス化を進め、現場力と創造性を備えた人材を育成する。」ことを基本方針として、新たな学部・学科の開設に取り組むとしている。

勝山市は、日本の恐竜研究の拠点である県立恐竜博物館や、恐竜化石の国内最大の発掘量を誇る北谷町杉山の恐竜化石発掘現場を有し、ジオパークを推進していることから、当市に恐竜研究を中心とする学部を設置することは、その理念と合致する。

恐竜博物館との連携、市と大学側双方のメリット、地域連携や市民交流のあり方などについて県と十分協議していくとともに、市議会をはじめ市民、関係者等のご理解とご支援をいただき、誘致に向けた取り組みを積極的に進めたい。

○ 学校給食の今後について

市議会
近藤栄紀
議員



そのほかの質問

- ・災害時の対応について
- ・成人式について
- ・県立大学新学部の勝山市内設置について

問 勝山市の学校給食は、小学校が自校方式、中学校がデリバリー方式となっているが、小学校の給食について質問する。毎日子どもたちのために栄養面、衛生面を考え、食育を推進されている栄養士、調理師、調理員の皆さんの現場について、今現在の現場について、今現在の配置されている調理師、調理員の人数および平均年齢、またそれは適正な人員配置なのか伺う。

答 市内の9小学校に正職員は8人で平均年齢が59才、会計年度任用職員は12人で平均年齢が50才、合計で20人配置しており、その平均年齢は53才となっている。

給食調理員の配置人数については明確に定めた基準はなく、勝山市では90食あたり1人以上配置することを目安にしている。令和2年度の市内小学校の給食数は約1200食で、給食調理員1人当たり約60食となり、それぞれの小学校でこの条件を満たしている。

業務分担は、原則として、週ごとに当番を変えて実施しているが、調理員が少ない小規模校では、固定的になることもある。また、業務内容については、会計年度任用職員は業務範囲を超えていないと考えているが、正職員から会計年度任用職員への移行が進む中、新人職員が配置された場合には、ベテランの職員に多少負担をかけるケースもあると認識している。